

## ◆理科野外実習（2 学年）

11月22日（水）理科野外実習で、北部（億首川マングローブ、漢那海岸、県民の森）へ行ってきました。北部の植生・地質など沖縄の自然を観察し、南部との違いを体感しました。



億首川マングローブ



マングローブの植物は、塩分を葉から出したり塩分を葉にためてその葉を自分で落とすという独自の進化をしていることに驚きました。

沖縄の自然を実際に目・耳・鼻で感じながら植生について考えを深めることができ楽しかった!!初めてみるものや授業で習ったことのある知識を応用できたり新たな学びが沢山あって改めて自然の大切さを心にとめることができた。

マングローブの種はタコさんウインナーのような形をしており、この形のつくりをしているのは種が落ちたときに地面の穴などに入って水の流れにも耐えられるようにつくられていると分かりました。

北部には秋に鳴くセミがいて「ケンケン」と高い声で鳴くことに驚きました。南部では一度も聞いたことがないのですが北部では当たり前で鳴いていると聞き、同じ沖縄でも北部と南部で生態系が全然違うと分かった。

湧き水が琉球石灰岩の不整合面から出ている現象を見た。この時は絶えず出ていたが、出てこない時期はあったのか、またどのくらい石灰岩の中に水がストックされているのか気になった。

県民の森で疑問に思ったことは、ヒカゲヘゴの茎がぐるんと曲がっていて、カメレオンのしっぽみたいなのが不思議でなんでだろうと思いました。



県民の森 (COD 測定)



漢那海岸



漢那海岸に行って、植物の種類によって背丈の長さや葉の厚さ、茎の違いがあるということを知った。単に教科書で学ぶより、実際に自然にふれることができて良かったです。

~野外実習新聞~

野外実習新聞